

## 令和2年度第2回仙台地域農業普及活動検討会

日時：令和3年2月2日（火）

午後1時30分から午後4時まで

場所：宮城県仙台合同庁舎1001会議室

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 課題検討

#### (1) 令和2年度プロジェクト課題について

##### 【完了課題】

- NO 1 省力化技術導入による大規模土地利用型経営体の生産性向上  
みどりあーと山崎（株）
- NO 3 GAPを活用した現場力の向上  
（株）未来彩園
- NO 4 6次産業部門の改善による経営力の向上  
（農）仙台イーストカントリー

#### (2) 令和3年度普及指導活動について

- イ 普及指導基本方針について
- ロ 令和3年度普及指導計画（案）について
- ハ 令和3年度プロジェクト課題について

##### 【継続課題】

- 中山間地域農業を支える地域営農体制の構築  
倉内・大針農村地域活性化委員会地域営農部会
- 先進的園芸経営体の生産技術向上による経営安定  
（株）イグナルファーム大郷

##### 【新規課題】

- 土地利用型法人によるえだまめ生産体系の確立  
（株）大郷農産
- 農村の維持発展を支える法人経営の体質強化  
（農）あきう生産組合
- 「シャインマスカット」の生産・販売力の向上による産地育成  
JA 新みやぎあさひなぶどう部会 中核的農家5名（同部会員20名）

#### (3) 総合検討

#### (4) その他

### 4 閉 会

## 令和2年度第2回仙台地域農業普及活動検討会開催要領

### 1 目的

効率的で効果の上がる普及指導活動を推進するため、当普及センターの活動について、先進的な農業者、学識経験者、市町村、農業関係団体、民間企業等による普及活動検討会を設置・開催し、普及指導活動の課題設定、普及指導計画及び活動評価等について意見を求め改善を図るもの。

2 日時 令和3年2月2日（火）午後1時30分から午後4時まで

3 場所 宮城県仙台合同庁舎 1001会議室  
 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
 TEL022-275-8320（仙台農業改良普及センター）

### 4 内容等

- (1) 令和2年度プロジェクト課題（完了課題）について
- (2) 令和3年度普及指導活動について
  - イ 普及指導基本方針について
  - ロ 令和3年度普及指導計画について
  - ハ 令和3年度プロジェクト課題について
- (3) 総合検討

### 5 検討委員

	所 属	職 名	氏 名
仙台市	東北大学大学院農学研究科資源生物科専攻 資源環境経済学講座フィールド社会技術学分野	教 授	角田 毅
仙台市	みやぎ生活協同組合産直推進本部	事 務 局 長	佐々木ゆかり
多賀城市	仙台農業士会	指 導 農 業 士	佐藤 敏充
富谷市	仙台農業士会	指 導 農 業 士	小松 明巳
仙台市	仙台農業士会	青 年 農 業 士	遠藤 耕太
仙台市	仙台市経済局農林部農業振興課	課 長	鈴木 中
大郷町	大郷町農政商工課	課 長	高橋 優
大衡村	大衡村産業振興課	課 長	渡邊 愛
仙台市	仙台農業協同組合営農部	部 長	渡辺 隆次
大和町	新みやぎ農業協同組合あさひな地区本部営農部	部 長	中川 進
合 計			10人

令和2年度第2回仙台地域農業普及活動検討会出席者名簿

(R3.2.2)

<検討委員>

	所 属	職 名	氏 名	
1	東北大学大学院農学研究科資源生物科専攻 資源環境経済学講座フィールド社会技術学分野	教 授	角田 毅 <small>すみ た つよし</small>	
2	みやぎ生活協同組合産直推進本部	事務局長	佐々木ゆかり	欠席
3	仙台農業士会	指導農業士	佐藤 敏充	
4	仙台農業士会	指導農業士	小松 明巳	欠席
5	仙台農業士会	青年農業士	遠藤 耕太	欠席
6	仙台市経済局農林部農業振興課	課 長	鈴木 中 <small>なか</small>	
7	大郷町農政商工課	課 長	高橋 優 <small>ゆう</small>	
8	大衡村産業振興課	課 長	渡邊 愛 <small>めぐむ</small>	
9	仙台農業協同組合営農部	部 長	渡辺 隆次	
10	新みやぎ農業協同組合あさひな営農部	部 長	中川 進	

<仙台農業改良普及センター職員等>

	所 属	職 名	氏 名
1	宮城県農政部農業振興課	技術主幹(革新支援専門員)	佐藤 篤
2	宮城県仙台農業改良普及センター	所長	門脇 正好
3	〃	農業普及指導専門監	泉澤 弘子
4	〃	技術次長(総括担当)	宮本 晴恵
5	〃 地域農業班	技術次長(班長)	鷺尾 英樹
6	〃 〃	技術次長	山田 有子
7	〃 〃	主任主査	菊地 敬子
8	〃 〃	技師	小林 真言
9	〃 先進技術第一班	技術次長(班長)	早坂 裕子
10	〃 〃	技術主査	千葉 研一郎
11	〃 〃	技術主査	漆山 裕子
12	〃 〃	技師	宇田川久美子
13	〃 〃	技師	細谷 和宏
14	〃 先進技術第二班	技術次長(班長)	小野寺和博
15	〃 〃	技術主幹	佐藤 浩子
16	〃 〃	技術主査	柴田 昌人

○ 令和2年度プロジェクト課題一覧表

資料1

No	プロジェクト課題名	計画期間	対 象 (対象農家・地域名等)	進行管理担当班 担 当 者 名
1	省力化技術導入による 大規模土地利用型経営 体の生産性向上 (「中間管理事業」 関連課題)	平成30年度 ～ 令和2年度	みどりあーと山崎(株) (大郷町)	先進技術第一班 ◎早坂裕子, 佐藤浩子 山田有子, 細谷和宏 鷺尾英樹
2	中山間地域農業を支え る地域営農体制の構築 (「中間管理事業」 「中山間地域振興」 関連課題)	平成31年度 ～ 令和3年度	倉内・大針農村地域活 性化委員会地域営農部 会 (仙台市)	地域農業班 ◎菊地敬子, 山田有子 小野寺和博, 小林真言
3	GAPを活用した現場 力の向上 (「GAP」関連課題)	平成31年度 ～ 令和2年度	(株)未来彩園 (大衡村)	先進技術第二班 ◎佐藤浩子, 千葉研一郎 堀越綾子, 宇田川久美子
4	6次産業部門の改善に よる経営力の向上	平成31年度 ～ 令和2年度	(農)仙台イーストカ ントリー (仙台市)	先進技術第二班 ◎柴田昌人, 小林真言 宇田川久美子, 宮本晴恵
5	先進的園芸経営体の生 産技術向上による経営 安定	令和2年 ～ 令和3年	(株)イグナルファー ム大郷 (大郷町)	先進技術第一班 ◎漆山裕子, 千葉研一郎 小野寺和博, 堀越綾子



## 課題N01

# 省力化技術導入による大規模 土地利用型経営体の生産性向上

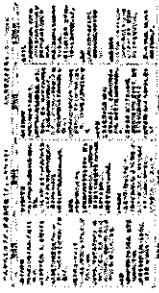
活動期間 平成30年度から令和2年度まで

対象者 みどりありと山崎株式会社  
(水稲47ha+大豆53ha)

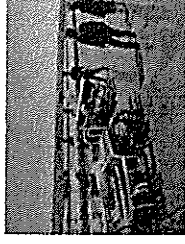
チーム員 早坂裕子・鷲尾英樹・山田有子・佐藤浩子・  
細谷和宏

## 2 活動内容 湛水直播技術の定着支援 (～R1)

- 作業子エックリストの活用による作業の流れ等理解
- 除草剤試験ほを活用した雑草防除の技術確立
- 生育調査や視察を通して実践的な技術の習得
- 振り返り検討会による課題の明確化と対策



作業子エックリストの活用



播種指導



栽培管理の検討



稲和アーム視察



生育調査 (幼穂長調査)

振り返り検討会

## 1 課題の背景・ねらい

### ▶ 背景

- ・農地中間管理事業により、水稲作付面積が17ha (H28) →41ha (H30) と急増、移植栽培による対応が限界。
- ・大豆は、5年周期のプロックローテーションによる土壌条件に対応した肥培管理等が難しく収量が低迷。
- ・経営ビジョン、経営計画が整備されないまま社員を採用。
- ・令和5年には社員へ経営承継を予定 (H29:2人採用, R1:1人採用)

### ▶ ねらい

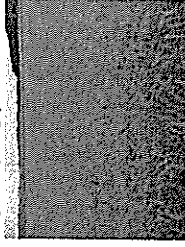
- ・稲作省力化技術の定着により、大規模経営が安定的に持続する。
- ・土壌条件に応じた肥培管理により、大豆の収量が向上する。
- ・経営ビジョンや経営計画が作成され、その達成に向けた営農が実践される。
- ・直播単収(H29実績)360kg/10a

目標(H30)390kg →(R1)420kg →(R2)450kg

## 2 活動内容

### 湛水直播技術の定着支援 (R2)

- OR1の課題解決  
(催芽状況, 播種時の田面の固さの確認等)
- 作業子エックリストの見直し検討
- 生育調査による技術習得の継続
- 収穫適期判断の助言 (9/18, 9/29)
- 作業子エックリスト作成
- 振り返り検討会 (2/下旬)



適期収穫判断の助言  
積算気温データを活用して収穫  
時期を判断

## 2 これまでの活動成果 渇水直播技術の定着支援

ねらい

- ① 稲作省力化技術の定着により、大規模経営が安定的に持続する。
- ② 単収目標 450kg/10a

○ 生育状況に応じて適切に栽培管理の判断ができるなど、栽培管理技術が向上・定着

○ 令和2年産単収は462kg/10aとなり、目標を達成

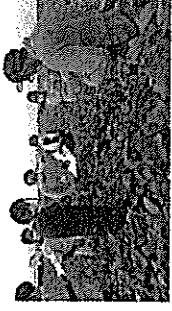
【直播単収実績】

(H29)360kg→(H30)390kg→(R1)402kg→(R2)462kg

## 3 活動内容

### 大豆の高位安定生産支援 (R2)

- 生育調査や巡回指導による栽培管理技術の定着
- 県大豆栽培研修会への参加誘導
- 摘芯栽培現地検討会開催による技術習得 (9/10)
- 適期収穫指導 (10/14ほか)
- 作の振り返り検討会 (2/下旬予定)
- 摘芯栽培にかかるとかかる資料作成・提供 ( " )



摘芯栽培の現地検討会  
他法人も参加して情報交換実施

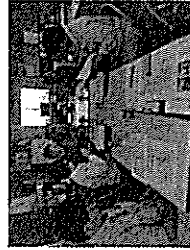
## 3 活動内容

### 大豆の高位安定生産支援 (～R1)

- 土壌分析による土づくりや適正施肥の実践
- 生育調査や先進地視察による栽培技術の習得
- 振り返り検討会による課題の明確化と対策



土壌採取



土壌分析結果の検討



先進地視察



生育調査



振り返り検討会

## 3 これまでの活動成果 大豆の高位安定生産支援

ねらい

土壌条件に応じた肥培管理により、大豆の収量が向上する。

○ 土壌分析の重要性が理解され、分析結果に基づいた土づくりが検討され実践

○ 生育調査による生育状況の把握、作の振り返り検討による課題解決、先進地視察、現地検討会等を通して栽培技術が向上

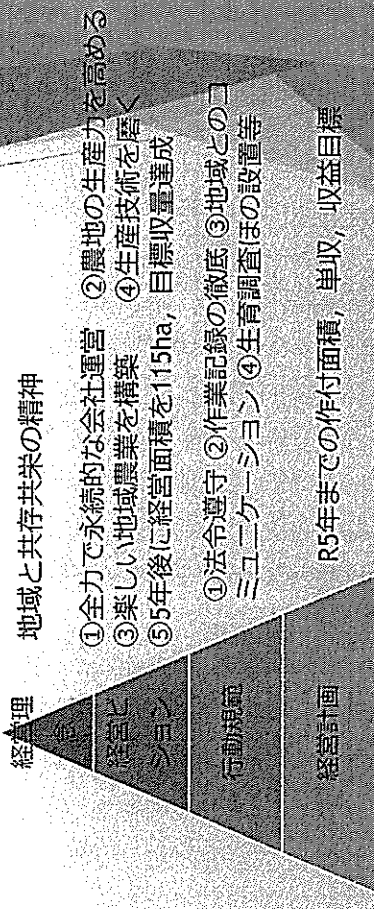
○ 大豆単収

H29:140kg⇒H30:190kg⇒R1:126kg (東日本台風被害)

⇒R2:160kg以上の見込み

## 4 活動内容 経営の実践支援 (～R1)

○経営理念の明文化, 経営ビジョン及び行動規範, 経営計画の作成, 就業規則の整備



○経営計画達成のための水稲及び大豆の栽培指導  
○専門家派遣による経営承継相談会の開催

## 4 活動内容 経営の実践支援 (R2)

○経営ビジョンの進捗確認  
「行動規範」に定めた「管理作業の進捗確認ができる体制づくり」

⇒記録確認者の設置 (1/上), 進捗確認方法の提案 (1/下), 優良事例の視察 (2/下)

○経営承継勉強会 (中小企業診断士派遣5回)

・「見えない財産」(栽培技術のノウハウなど)の洗い出し

①6/22 ②9/7 ③12/14

・経営承継計画作成

④1/21 ⑤2/22

○経営計画の達成状況確認 (2/下)  
作付面積, 収量, 収益



経営承継勉強会 (3回目)  
会社の強み・弱みを整理

## 4 これまでの活動成果 経営の実践支援

ねらい  
経営ビジョンや経営計画が作成され, その達成に向けた営農が実践される。

○経営ビジョン, 経営計画, 就業規則等が作成され, 法人が目指す方向の共有, 目標の明確化 (数値化), 社員確保のための労働環境が整備。

○経営承継勉強会を通して経営承継の意識が醸成。「見えない財産」の共有化が図られるとともに, 承継計画が2月に完成する見込みとなり, 承継の準備が前進。

○経営計画はこれまで概ね達成。R2も達成の見通し。

## 5 今後の活動

○水稲直播栽培

水稲直播栽培に取り組み生産者に対して, 作業手エックリスト等を活用して技術支援

○大豆栽培

摘芯栽培に関心のある生産者に対して, 摘芯栽培資料を活用して技術の習得を支援

○経営承継

今後, 法人における経営承継が増加することが予想されることから, 活動で得られたノウハウを資料にまとめ, 円滑に経営承継されるよう支援



## 課題NO.2 中山間地域農業を支える地域営農体制の構築 (「中間管理事業」 「中山間地域振興」 関連課題)



### 1 課題の背景・ねらい

#### <背景>

- ① 倉内・大針地区（仙台市西部）は、高齢化による担い手不足、耕作放棄地の増加等の中山間地域特有の課題に直面している。
- ② 平成29年7月に「倉内・大針農村地域活性化委員会」を設立し、農業競争力基盤整備事業実施に向け取り組んでいる。
- ③ 令和4年度から始まる工事前には持続的に集落営農を担う組織の設立と導入物を決定し、工事終了後には新たな地域営農をスタートさせる計画。

#### <ねらい>

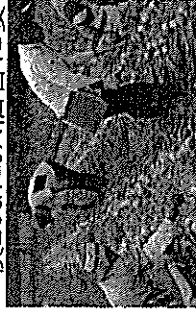
- ① たまねぎの技術及び収益性の検討を行い、導入品目として決定する。
- ② 集落営農組織の法人化が図られる。

数値目標：基盤整備後作付け品目の決定：H30 無し—R元：1品目 —R2：2品目 —R3：3品目  
(実績：1品目(ばねぎ) ) (実績：2品目(玉ねぎ))

## 2 活動内容及び成果 ①導入予定品目の栽培技術支援

<たまねぎの収穫支援及び収益性や作業性を検討>

- 収穫したたまねぎは、全農経由で10kgネット形態で560kg出荷した。
- 収益性や作業性を検討したところ、収益性は低いものの、除草作業等の管理作業が長ねぎより省力であることから、たまねぎ栽培を将来取り組むことに決定した。
- 令和3年6月の収穫に向け、コスト低減を検討するため、10月に面積20aにJA仙台に委託し機械定植を実施。

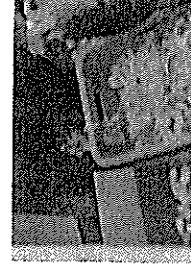
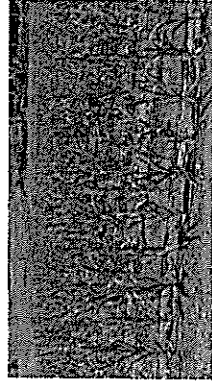


Miyagi Prefectural Government

## 2 活動内容及び成果 ①導入予定品目の栽培技術支援

<ジャンボにんにく栽培支援>

- 令和元年10月に定植した導入品目候補の「ジャンボにんにく」は、令和2年6月に収穫・乾燥後に近くの農業法人に出荷。生産量129kg/2aから次年度の種子（約19kg）を除いた約110kgを販売した。
- 令和3年6月の収穫に向け10月に定植。

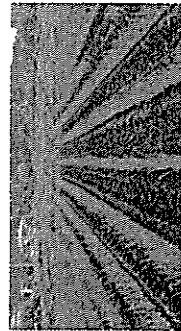


Miyagi Prefectural Government

## 2 活動内容及び成果 ①導入予定品目の栽培技術支援

<長ねぎ栽培支援>

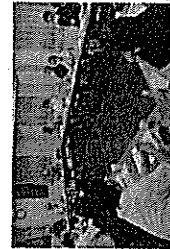
- 今年度栽培技術習得のため、4月育苗、5月定植支援。
- 6月から9月栽培管理支援。
- 10月以降、収穫した長ねぎを販売する活動支援  
 営農部会でチラシを作成し、地域内等に販売した。1000円（8kg/袋）で販売。約200袋販売



## 2 活動内容及び成果 ②集落営農の法人化支援

<集落営農の法人化に向けて、推進体制を支援。>

- 集落営農の法人化に向けて、発起人7名、構成員予定者17名を決定。
- 法人化に向けたスケジュールを提示するとともに、発起人会で作成する農事組合法人設立にむけた「目論見書」「定款」等作成支援。
- 集落全体の合意形成支援

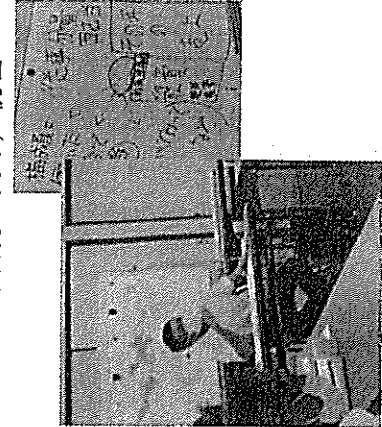
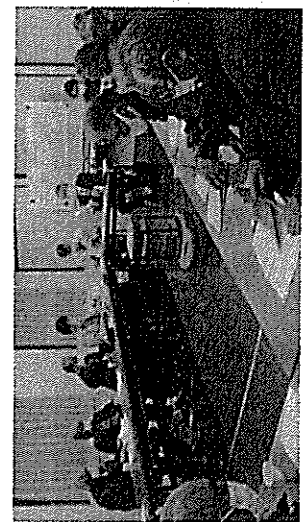


収支計画（当組合の中期5ヶ年収支計画書）

収入・支出(円)	R3(1期)					R5(3期)					R7(5期)				
	16	17	18	19	20	16	17	18	19	20	16	17	18	19	20
収入	474,600	703,800	200,000	1,170,000	26,150,000	1,752,000	703,800	703,800	700,000	27,327,000	18,230,000	13,875,000	21,900,000	3,000,000	3,000,000
支出	26,841	171,227	15,000	217,000	5,165,000	54,239	171,227	30,000	5,419,000	3,813,000	2,581,000	664,000	874,576	130,000	1,847,110
繰上金	474,311	472,206	183,000	1,402,000	15,665,000	493,422	472,206	300,000	17,294,000	18,843,000	742,500	11,027,775	2,125,110	1,870,000	3,154,726
繰下金					2,500,000				7,000,000	3,000,000	1,000,000				7,400,000
繰上金等	378,695	91,371	168,000	917,000	33,632,000	748,099	91,371	332,000	4,484,714	23,247,000	1,654,527	9,376,116	26,854	1,850,000	14,466,276
繰下金等															

## 2 活動内容及び成果 ②集落営農の法人化支援

農業経営相談所の重点指導農業者として位置づけるための手続きを行ない、農業経営相談所の重点指導農業者に決定。法人化に必要な知識習得に向け、税理士、司法書士の派遣による研修会を開催。



司法書士による研修会

税理士による研修会





# 課題NO.3

## GAPを活用した現場力の向上

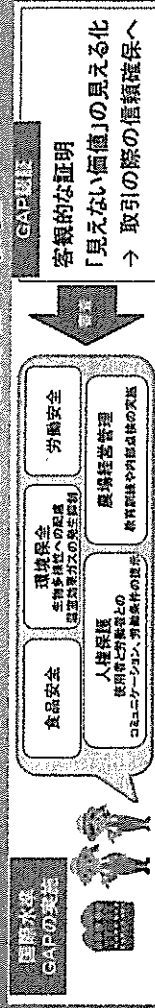
活動期間：平成31年度～令和2年度

対象者：株式会社未来彩園(取締役1人、従業員4人)

チーム員：佐藤浩子、千葉研一郎、堀越綾子、宇田川久美子

# GAP (Good Agricultural Practice) 「農業生産工程管理」とは...

農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続的可能性を確保するための生産工程管理の取組



生産管理や従業員の経営意識の改善等による現場力の向上

## 1 課題の背景・目標

### (1) 背景

- 設立：平成16年
- 従業員：常務取締役、正社員3人、パート従業員20人
- 規模：ガラス温室10,363㎡
- 品目：大玉及び中玉トマト(養液栽培)
- 平成19年10月に県内初のJGAP認証取得。平成30年1月にASiAGAP認証を取得。
- 常務取締役と栽培担当主任の正社員の2人はGAP指導員資格を所有。しかしながら、パート従業員まではGAPについての理解が浸透していない。

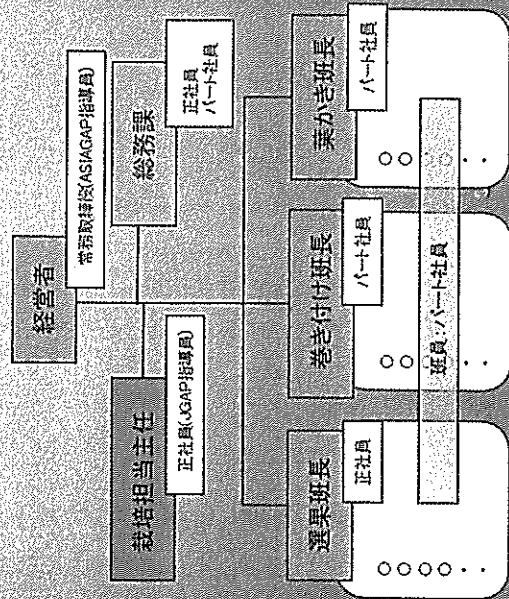
### (2) ねらい

- 全従業員がGAPを理解することにより意識改善が図られ、自主的に作業改善策を提案・実施するようになる。
- 数値目標：作業改善数 H30:なし - R1:1 (実績0) - R2:2



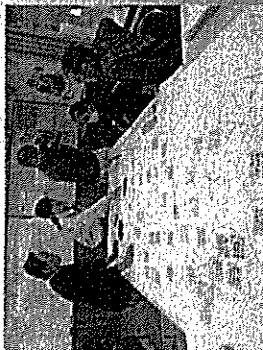
株式会社未来彩園

## 株式会社 未来彩園 組織図



## 2 活動内容(～R2.8月)

(1)リーダー育成とチーム活動手法の検討



リーダー育成に向けた経  
営者との打ち合わせ及び  
提案(随時、継続して実施)

ワークショップの開催

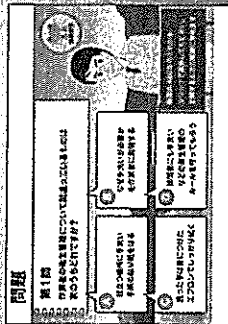
従業員研修会

### 従業員研修会 (GAPを理解するためのミニ講習会)

GAPについて

- ・未来彩園の取組み
- ・GAPとは
- ・GAPの5つの柱
- ・GAPに取り組みメリット
- ・GAPに取り組むうえで理解してほしいこと

その取り組み、何のためか  
把握していますか？  
GAPを理解するために…  
**問題です！**



慶祥派遣省HP  
TGAPオンライン研修  
GAP理解度確認テストより

## 2 活動内容(R2.9月以降)

(1)リーダー育成とチーム活動手法の検討



GAPを理解するためのミニ講習会

## 3 これまでの活動成果

(1)リーダー育成とチーム活動手法の検討

研修会終了後、従業員に対してアンケートを実施

【結果】

GAPを「知っていた」・・・50%

GAPを「知らなかった」・・・50%

↓  
(講習会后)

GAPを「理解できた」・・・100%

これからGAPを意識して作業に「取り組みたい」・・・95%

理解度にバラツキ

全員に浸透  
前向きな意識の変化



### 3 これまでの活動成果

(2)従業員による自主的な現場改善活動定着支援

栽培マニュアル改訂にむけた話し合いの場づくりの提案



栽培マニュアル(2021年版)

1. GAP概要	2021年
2. 栽培管理	2021年
3. 収穫管理	2021年
4. 出荷管理	2021年
5. 品質管理	2021年
6. 安全管理	2021年
7. 環境管理	2021年
8. 労働管理	2021年
9. 衛生管理	2021年
10. 設備管理	2021年
11. 資材管理	2021年
12. 情報管理	2021年
13. 関係者との連携	2021年
14. 継続的改善	2021年
15. 評価・検証	2021年
16. 付録	2021年
17. 索引	2021年
18. 用語集	2021年
19. 参考文献	2021年
20. 謝辞	2021年
21. 編集後記	2021年
22. 編集者名簿	2021年
23. 印刷	2021年
24. 配布	2021年
25. 評価	2021年
26. 改善	2021年
27. 継続	2021年
28. 評価	2021年
29. 改善	2021年
30. 継続	2021年

#### 栽培マニュアル

### 3 これまでの活動成果

(2)従業員による自主的な現場改善活動定着支援



空調服の導入



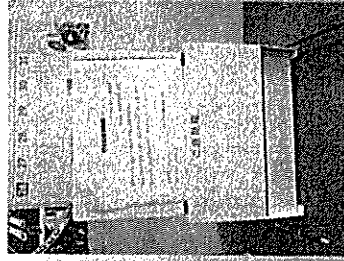
遮熱剤の塗布



選果場への大型エアコンの導入

### 3 これまでの活動成果

(2)従業員による自主的な現場改善活動定着支援



「ご意見箱(目安箱)」の設置(R2)



間違しやすい出荷形態について指示(R1)

空調服の導入

遮熱剤の塗布

選果場への大型エアコン導入

薬剤散布のシフト見直し

### 4 まとめ

#### ● 定性的目標

全従業員がGAPを理解することにより意識改善が図られ、自主的に作業改善策を提案・実施するようになる。

#### ● 数値目標

作業改善数 H30:なし → R1:1 → R2:2  
(実績1) (実績6)

達成

達成

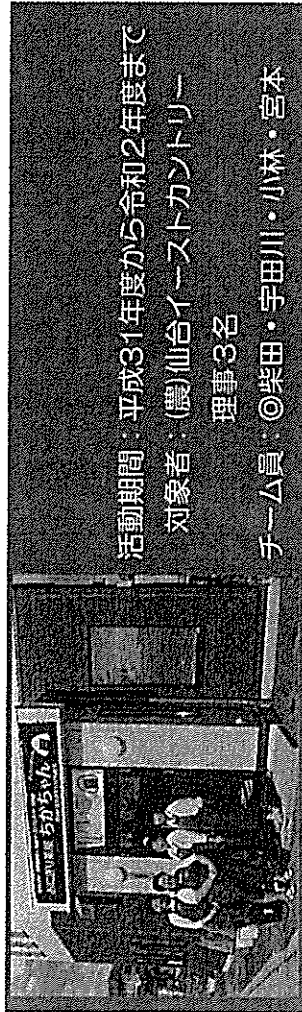
今後は…

(株)未来彩園のフォローアップと、同様にGAPに取り組む法人等に対して、従業員の意識改善により、自らが問題意識を持ち、自主的に作業改善を提案できるよう、支援していく。

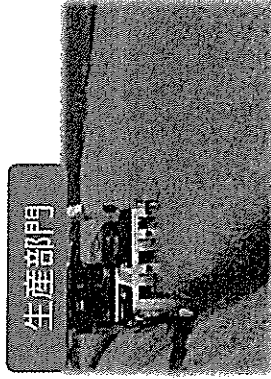


## 課題NO.4

### 6次産業部門の改善による経営力の向上



## (農)仙台イーストカントリー紹介



東日本大震災により経営面積の2/3が浸水し、農業施設や機械が流失するなど被災。H25に農産加工施設及びおにぎり茶屋「ちかちゃん」を新設した。

### 加工・販売部門



おにぎり、味噌、惣菜等  
 ・委託販売 (H30年8カ所)  
 ・イベント販売



ランチプレート、豚汁等  
 ・レストランメニュー  
 ・テイクアウト商品

## 『一人ひとりの食に応える農業を 目指して』

第50回日本農業賞 大賞受賞  
 おめでとうございます。



## 1 課題の背景・ねらい

- 背景
  - ・6次産業化したことによる付加価値が見えにくい状況にあったことから経営状況の把握と改善が課題であった。
- ねらい
  - ・定性的目標
    - 6次産業部門（農産加工施設及びおにぎり茶屋）の経営状況を把握し、経営力が向上する。
  - ・数値目標：営業利益の増加率
    - H29年(基準年)⇒R1年5%増⇒R2年10%増













# 課題NO.5 先進的園芸経営体の生産技術向上による経営安定

活動期間：令和2年度から令和3年度まで  
 対象者：株式会社イクラファーム大野（代表取締役 大野 正樹）  
 チーム員：漆山・小野寺・千葉・堀越

## 1 課題の背景・ねらい

▶ 背景

- ・令和元年東日本台風被災（令和元年10月）  
 令和2年4月から栽培再開  
 ⇒ 長期間休業したことにより収益、社員数減少
- ・早期に経営回復するためには

- 1) 環境制御技術の習得、活用による収量向上
- 2) 作業内容、作業分担の見直し等による作業の改善（作業効率化）が必要

▶ 今年度の目標

- ・環境制御技術の理解、習得が図られる ⇒ 1) 環境制御技術の習得支援
- ・作業改善の必要性が理解され、作業工程の見直しができるようになる  
 ⇒ 2) 作業工程の確認、見直し支援
- ・ミニトマト出荷量 17t/10a(令和2年度) → 19.5t/10a(令和3年度)



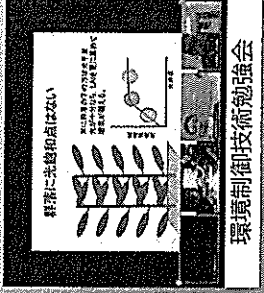
## 2 活動内容 1) 環境制御技術の習得支援

環境制御技術習得支援

項目	内容
1. 環境制御技術の習得	環境制御技術の習得支援
2. 作業工程の見直し	作業工程の見直し支援
3. 作業効率化	作業効率化支援
4. 収量向上	収量向上支援
5. 経営安定	経営安定支援



栽培管理検討会



環境制御技術勉強会



トマト生産法人視察



作の振り返り検討会



次期作品種検討

## 2 活動内容 2) 作業工程の確認、見直し支援



作業進捗の確認、課題、対応について意見交換



「労働力不足解消のためのスマート農業実証」事業により導入された大型選果機

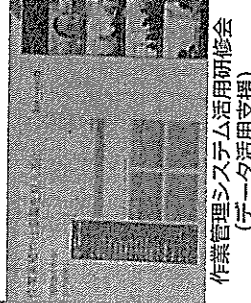


作業振り返り検討会

項目	内容
1. 環境制御技術の習得	環境制御技術の習得支援
2. 作業工程の見直し	作業工程の見直し支援
3. 作業効率化	作業効率化支援
4. 収量向上	収量向上支援
5. 経営安定	経営安定支援



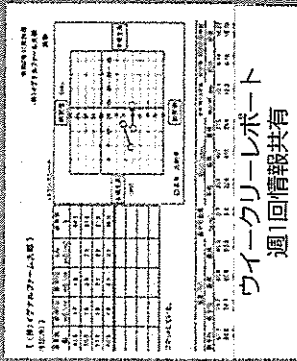
マニュアル作成支援



作業管理システム活用研修会  
 (データ活用支援)

### 3 これまでの活動成果 1) 環境制御技術の習得支援

- ▶ 生育調査, ウィークリーレポート作成が習慣化した。
- ▶ 環境制御技術に関する疑問点を整理できるようになった。
- ▶ 環境制御技術, 生育調査データへの関心が高まり, 社員間で生育調査データ等について検討できるようになった。



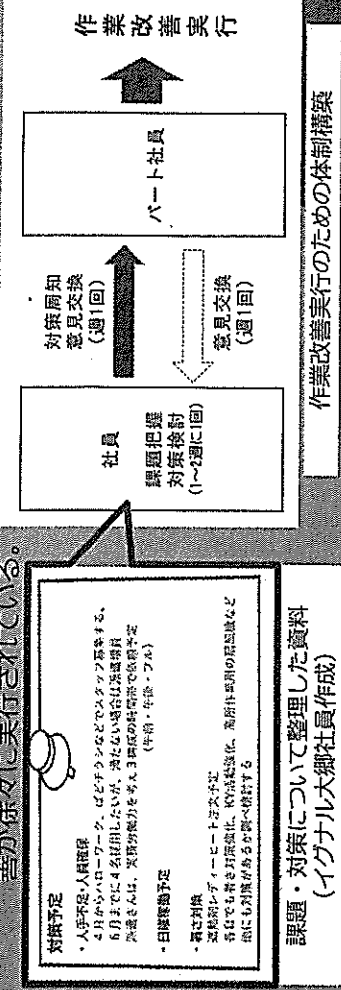
**疑問点**

- 夏の高温時に環境制御ができていない  
いよさ対策をどうするか
- 葉面積 (LAI) 3~4 を目指すには  
葉面積を確保しつつ, 作業効率を落とさない

県主催の環境制御研修会での発表資料  
(イグナナル大郷社員作成)

### 3 これまでの活動成果 2) 作業工程の確認, 見直し支援

- ▶ 社員間で情報共有し, 課題や対策の検討を行う体制が構築
- ▶ 対策についてパート社員へ周知, 実行する体制が構築
- ⇒ 体制が構築されたことで情報共有, 情報交換がスムーズになり, 作業改善が徐々に実行されている。



**対策予定**

- 人手不足・人員確保  
4月からパートワーク, ばねトラクタなどでスタッフ募集する。6月までは4名程度だが, 増えない場合は派遣職員派遣される。天候対策力を高める3月以降の時間帯での作業予定 (午前・午後・夕方)
- 日課準備予定
- 置き対策  
葉面積にディフェンダーモードで作業予定。冬場でも育てやすくなる。天候対策は, 高所作業用の高層機などにも対策があるか調べ検討する

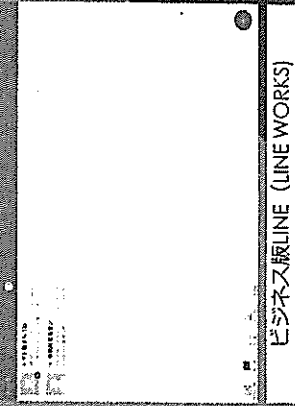
課題・対策について整理した資料  
(イグナナル大郷社員作成)

### 3 これまでの活動成果 1) 環境制御技術の習得支援

- ▶ 病虫害防除研修会 (リモート方式) を主催し, 他法人との繋がりができた。
- ▶ 他法人との情報交換体制を構築中 (ビジネス版LINE活用)。



病虫害防除検討会 (イグナナル主催)



ビジネス版LINE (LINE WORKS)

### 3 これまでの活動成果 2) 作業工程の確認, 見直し支援

- ▶ 作業マニュアル, 動画・マニュアル作成
- ▶ 各作業の標準作業効率 (1時間当たりの標準作業量) などの作業データ算出 (「労働力不足の解消に向けたスマート農業実証事業」)

**作業マニュアル**

作業マニュアル作成の目的は、作業工程の標準化と効率化を図ることです。作業マニュアルを作成することで、作業工程の標準化を図ることができ、作業効率を向上させることができます。

作業マニュアルの作成には、作業工程の標準化と効率化を図ることが重要です。作業マニュアルを作成することで、作業工程の標準化を図ることができ、作業効率を向上させることができます。

作業マニュアルの作成には、作業工程の標準化と効率化を図ることが重要です。作業マニュアルを作成することで、作業工程の標準化を図ることができ、作業効率を向上させることができます。

各作業の標準作業効率	単位	実施予定月	実施予定日
飼料かき・誘引作業等	m/h	11月	実施予定未定
収穫作業	kg/h		
選果	kg/h		
葉かき作業	m/h		

各作業の1時間当たりの標準作業量

作業マニュアル



### 3 これまでの活動成果

#### 【まとめ】

- 1) 環境制御技術の基本的な知識を習得
- 2) 社員の意識が改善し、社内の情報交換・情報共有化体制が構築された  
しかし、ミニトマト出荷量 R2年度目標：17t/10a 実績見込 11t/10a

#### 令和3年度に向けての課題

- ・生育調査データの栽培管理への活用
- ・栽培管理技術の向上（病害虫の発生、高温による生育不良）
- ・労働力不足、作業精度の差による作業の遅れ改善
- ・作業改善（対策）をパート社員も確実に実行できるようにする

8

### 4 令和3年度の活動について

#### 定性的目標

- ・環境制御技術等の習得、活用により、収量向上、安定生産が図られる
- ・作業改善に関する知識の向上により、職員の作業精度の平準化と作業効率化の取り組みが行われる

#### 定量的目標：19.5t/10a

#### 1) 環境制御等栽培管理技術向上支援

- ・各種データ（生育調査データ等）の栽培管理への活用支援
- ・栽培管理技術向上支援（病害虫防除啓作成、高温対策検討）
- ・他法人との連携強化支援（情報交換会、ビジネスチャットの活用）

#### 2) 作業管理体制の整備支援

- ・作業データ活用支援（派遣社員等の導入時期の検討、作業量（時間）の目標設定）
- ・作業マニュアル、動画マニュアル活用支援
- ・作業改善実行支援（指示系統の整理、社内の意見交換の活性化）

9

普及指導基本方針

令和3年度 普及指導計画

普及事業の指針・方針

協同農業普及事業の運営に関する指針(国)

- 1 担い手の育成・確保
- 2 スマート農業実践等による生産・流通の技術革新・生産基盤の強化
- 3 気候変動への対応等環境対策の推進
- 4 食糧の安定供給の確保
- 5 農村の振興に関する支援
- 6 東日本大震災からの復旧・復興と大規模自然災害等への対応

協同農業普及事業の実施に関する方針(宮城県方針)

計画期間:R3~7年度

- 1 みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化
- 2 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給
- 3 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

仙台地域普及指導基本方針(地域方針)

計画期間:R3~7年度

- 1 地域農業を支える多様な人材確保・育成と経営の安定化・高度化
- 2 園芸産地の育成・強化
- 3 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開
- 4 地域資源を活かした農村の振興
- 5 食の安全・安心と持続可能な農業の推進
- 6 大規模自然災害等からの復旧・復興支援

重点活動項目

1 地域農業の担い手の確保・育成と経営体の体質強化

- ①土地利用型農業や園芸における大規模経営体の経営安定化支援
- ②地域の担い手となる認定農業者や「人・農地プラン」で位置づけられた中心的経営体の経営安定化支援
- ③経営分析・診断に基づく、生産・経営の課題解決支援
- ④中山間地域における意欲ある経営体の育成・確保と生産性の向上
- ⑤新規就農者及び新規参入者の育成・定着支援
- ⑥次代を担う青年農業者及び雇用就農者の育成支援
- ⑦農業法人等における農業経営の円滑な承継を支援
- ⑧新たな脅威に対応できる農業経営の継続に向けた支援

2 先進的農業に取り組む経営体の技術導入・活用支援

- ①水田のフル活用に向けた省力・低コスト技術導入・定着化支援
- ②園芸施設における高度な環境制御技術等に取り組む経営体の支援
- ③ICT技術をはじめとするアグリテック技術の導入に取り組む経営体の支援
- ④高収益化に取り組む土地利用型経営体等の園芸作物導入に関する支援
- ⑤飼料自給率や飼養管理技術向上、新技術導入による経営安定化

3 仙台近郊の多彩な園芸の振興

- ①仙台近郊の立地を活かした園芸産地の栽培技術支援
- ②都市近郊型の多様な果樹の振興支援
- ③多様な顧客ニーズに対応した加工販売等の支援
- ④中山間地域等の特色を生かした園芸品目等の導入支援
- ⑤直売所やインショップ向けの多様な園芸品目の栽培技術支援

●プロジェクト課題

No1 中山間地域農業を支える地域営農体制の構築

- 対象:倉内・大針農村地域活性化委員会地域営農部会(仙台市)
- 活動期間:H31~R3
- 活動内容:高収益品目(ねぎ等)の品目決定と栽培技術支援、法人化支援

No2 先進的園芸経営体の生産技術向上による経営安定

- 対象:(株)イグナルファーム大郷(大郷町)
- 活動期間:R2~R3
- 活動内容:環境制御技術向上・活用支援、作業改善支援

No3 土地利用型法人によるえだまめ生産体系の確立

- 対象:(株)大郷農産(大郷町)
- 活動期間:R3~R5
- 活動内容:栽培技術支援、新規作型検討

No4 農村の維持発展を支える法人経営の体質強化

- 対象:(農)あきう生産組合(仙台市)
- 活動期間:R3~R5
- 活動内容:土地利用型作物栽培技術支援、新規園芸品目導入・定着支援

No5 「シャインマスカット」の生産・販売力向上による産地育成

- 対象:JA新みやぎあさひなぶどう部会中核的農家5名(富谷市、大和町、大郷町)
- 活動期間:R3~R4
- 活動内容:生産技術の高度化・省力化支援、販売力向上支援

●重点活動

1 環境制御システム導入経営体の技術向上

- 対象:環境制御システムを導入している経営体
- 活動内容:巡回による技術支援

2 日本なし産地の育成強化

- 対象:JA仙台利府なし部会
- 活動内容:栽培技術の情報提供、巡回による技術支援

3 ねぎの生産拡大

- 対象:JA新みやぎあさひな地区 ねぎ部会
- 活動内容:巡回指導、現地検討会等

4 新規就農者等の確保・育成・定着支援

- 対象:就農希望者、新規就農者等(管内全域)
- 活動内容:就農計画等の作成支援、基礎的な栽培技術支援

5 大郷町粕川地区の地域農業再編支援

- 対象:大郷町粕川地区の土地利用型法人、認定農業者
- 活動内容:経営相談、技術提供、巡回指導

6 中山間地域における高収益作物導入による営農活動定着支援

- 対象:仙台市、日向地区、仙台市野尻地区、大和町吉田麓下地区(仙台市、大和町)
- 活動内容:高収益作物栽培技術支援、中心経営体への経営管理支援等

7 農地整備地区における水稲乾田直播栽培の技術確立

- 対象:大郷町前川地区水稲法人(大郷町)
- 活動内容:栽培技術確立に向けた技術支援、栽培技術に係る勉強会等

8 法人経営管理能力向上による経営改善支援

- 対象:経営改善志向農業法人(仙台市、七ヶ浜町、松島町、大郷町等)
- 活動内容:経営計画作成と改善支援、雇用就農者の育成支援、ICT技術等の活用支援

●一般活動

- 1 地域農業を支える担い手の確保・育成支援  
・認定農業者、集落営農組織等
- 2 新たな農業者の確保・育成支援  
・新規就農者、就農希望者、4Hクラブ、農業士会等
- 3 経営参画に意欲的な女性農業者の育成  
・女性農業者
- 4 地域農業の構造改革に向けた取組支援  
・各農業振興協議会、各農業再生協議会等
- 5 農村地域の振興に向けた取組に関する支援  
・中山間地域直接支払制度協定締結地域等
- 6 水稲の作柄安定と省力・低コスト稲作の推進  
・稲作農業者等
- 7 土地利用型作物の生産性向上支援  
・各集落営農組織、採種組合等
- 8 アグリテック農業の推進  
・管内農業者、アグリテック農業志向農業者
- 9 野菜の生産・品質の向上とブランド化支援  
・野菜生産者等
- 10 果樹の安定生産支援と新たな担い手の確保・育成  
・果樹農家、各生産部会・組合等
- 11 安全・安心な農畜産物の供給支援  
(放射性物質検査含む)  
・管内の農業者
- 12 花き類の安定生産支援  
・花き農業者
- 13 生産性の高い畜産経営の推進  
・乳用牛群検定実施農業者、肉用牛農業者等
- 14 農業経営の発展段階に応じた課題解決支援  
・法人化志向農業者、組織経営体等
- 15 環境に配慮した農業の推進  
・管内の農業者
- 16 6次産業化・農商工連携等を目指す経営体の育成  
・6次化・起業志向農業者
- 17 鳥獣被害防止対策の支援  
・鳥獣被害発生地区等
- 18 新たな自然災害等に対応できる経営継続への支援  
・管内農業者

みやぎ食と農の県民条例基本計画(第3期)

仙台地方振興指針

重点的に取り組むべき内容

反映

反映



# 第3期「みやぎ食と農の県民条例基本計画」の概要

## 序章 基本計画策定にあたって

### 1 第3期基本計画の策定趣旨

みやぎ食と農の県民条例（H12制定）に基づき、本県の食と農に関する総合的な計画として、食と農を取り巻く情勢の変化や、SDGs（持続可能な開発目標）の観点も踏まえ、令和3年度を初年度とする第3期基本計画を策定します。

### 2 基本計画の位置づけ

みやぎ食と農の県民条例で掲げる4つの目標を実現するために定める宮城県の食と農業・農村の振興に関する概ね10年を期間（R3～R12年度）とする基本的な計画です。

#### 条例に掲げる4つの目標

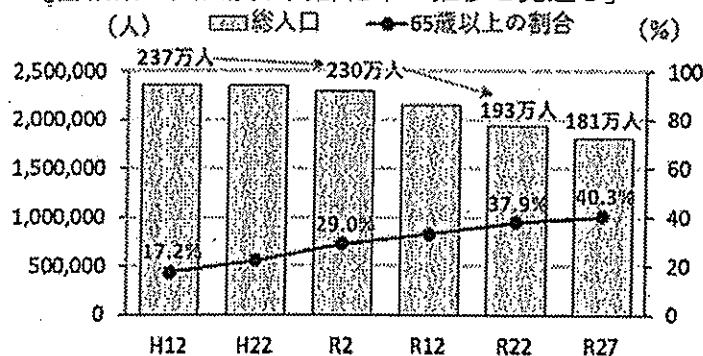
- 安全で安心な食料の安定供給
- 農業の持続的発展
- 多面的機能の発揮
- 農村の総合的な振興

### 3 基本計画の進行管理

## 第1章 宮城県の食と農を取り巻く情勢とこれまでの取組

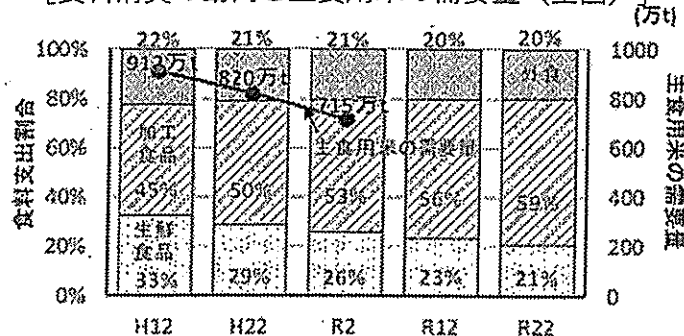
人口減少が今後さらに加速し、高齢化率も増加。

[宮城県の人口及び高齢化率の推移と見通し]



主食用米の需要量は年10万tペースで減少する一方、食の外部化が進行。

[食料消費の動向と主食用米の需要量（全国）]



## 第2章 基本計画で目指す将来の姿

### 【キャッチフレーズ】 共創力強化 ～多様な人材が豊かな未来をつくる みやぎの食と農～

人口減少や高齢化が進む中で、食と農業・農村への消費者の理解と協働のもとに、農業者だけではなく、次世代の若者も含め、食と農に関わる全ての人材が結びつき、活躍することにより、豊かなみやぎの食と農の未来を共に創っていく力を強化します。

#### I 食の将来像

海・山・大地の豊かな恵みと東北の大消費地仙台を抱える強みを生かし、消費者と生産者の相互理解を深めながら、食品産業等との連携を強化し、食のバリューチェーンをつなぎます。これにより、「食材王国みやぎ」を全国に浸透させ、時代のニーズに対応した「豊かなみやぎの食」をつくり出します。

#### II 農業の将来像

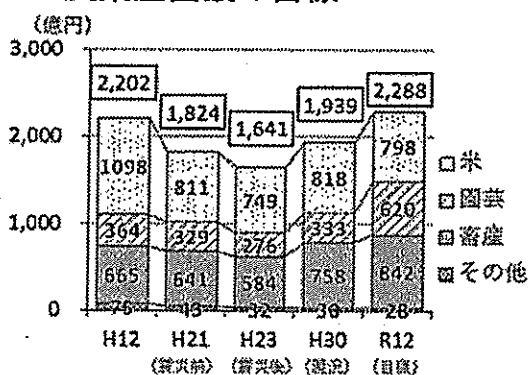
全国トップクラスの大区画水田整備率や園芸栽培に適した気候や立地条件を生かし、アグリテックによる労働生産性の高い水田農業や畜産経営を展開するとともに、食品産業と連携しながら園芸の生産を拡大します。これにより、みやぎの農業を地域経済を支える産業として発展させます。

#### III 農村の将来像

都市と農村の距離が近く、美しい風土や地域資源が豊富にある強みを生かし、郷土愛のある地域人材が外部人材との協働により、多彩な“なりわい”を創出します。また、農村において人口減少や高齢化に対応しながら魅力ある地域を維持していくため、デジタルトランスフォーメーションの推進や防災機能を強化します。これにより、関係人口や移住希望者に選ばれる持続可能な農村をつくり出します。

### 主要目標

#### 1 農業産出額の目標



#### ● 農業産出額

1,939億円(H30)⇒2,288億円(R12)

園芸産出額倍増を目指します！  
333億円(H30)⇒670億円(R12)

園芸産出額620億円  
+1次加工による付加価値50億円

⇒マーケットインによる生産拡大と食品産業との戦略的な連携によるバリューチェーンの構築を進めます。

#### 2 農業の担い手・農地の目標

##### ● 認定農業者数の目標

6,279経営体(R1)⇒6,300経営体(R12)  
〔販売農家数〕

37,522戸(H27)⇒20,500戸(R12)

⇒販売農家数が減少する中で、食と農業・農村の持続的発展のため、意欲ある家族経営体を含め多様な人材の確保・育成を推進します。

##### ● 農地面積の目標

126,300ha(R1)⇒122,100ha(R12)

⇒条件不利地における耕作条件の改善や、アグリテックの導入、地域資源を活用した多様ななりわいの創出等により、優良農地の確保と効果的な活用を推進します。

## 第3章 将来像の実現に向けた施策の推進方向

各種施策の推進にあたっては、平坦地域と中山間地域のそれぞれの強みや課題を意識した取組を展開します。

### I 時代のニーズに対応した県産食品の安定供給（豊かな食）

施策1 県民による豊かなみやぎの食と農への理解と地産地消の促進

施策2 生活様式の変化に対応する県産食品の販売力強化

施策3 県民への安全・安心な食料の安定供給

### II 次代の人材育成と革新技术の活用による戦略的な農業の展開（儲ける農業）

- 施策4 みやぎの農業を支える多様な人材の確保・育成
- 施策5 先進技術等を活用した農業生産の効率化と高度化
- 施策6 基盤整備と集積・集約化による農地利用の高度化
- 施策7 先進的大規模拠点を中心とした園芸産地の確立
- 施策8 水田フル活用による需要に応じた作物生産の振興
- 施策9 生産基盤の拡大による畜産の競争力強化

### III ひと・もの・ちえを総動員した持続可能な農村の構築（活力ある農村）

- 施策10 関係人口と共に創る活力ある農村
- 施策11 地域資源を活用した多様ななりわいの創出
- 施策12 環境と調和した持続可能な農業・農村づくり
- 施策13 農業・農村の強靱化による地域防災力の強化

## 第4章 将来像の実現に向けた推進体制

「各主体の役割」, 「関連計画との連携」

### 参考資料

農業経営モデル, 産業振興審議会名簿, みやぎ食と農の県民条例

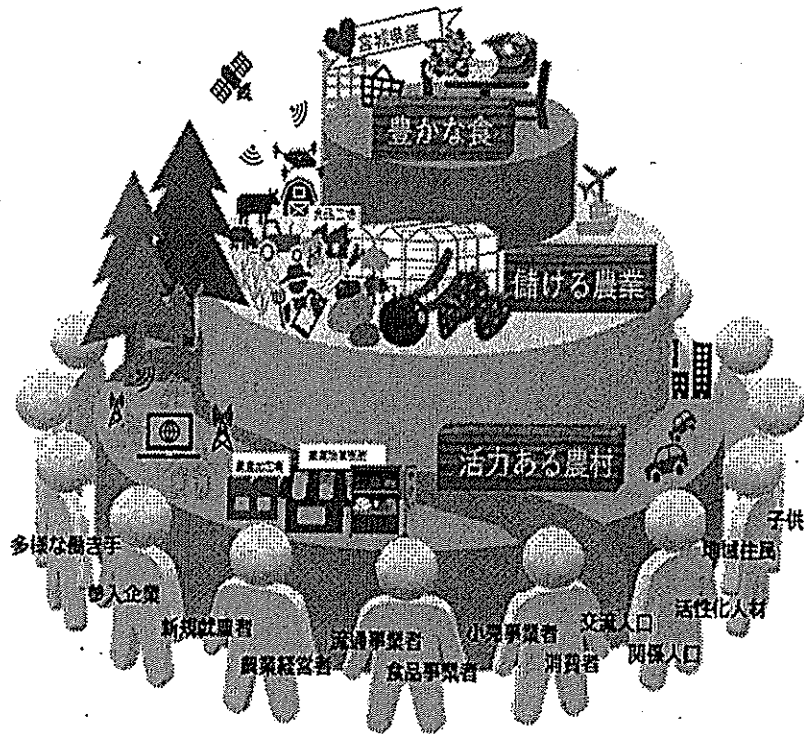


# 共創力強化

～多様な人材が豊かな未来をつくる みやぎの食と農～

人口減少や高齢化が進む中で、食と農業・農村への消費者の理解と協働のもとに、農業者だけではなく、食と農に関わる全ての人材が結びつき、活躍することにより、豊かなみやぎの食と農の未来を共に創っていく力を強化します。

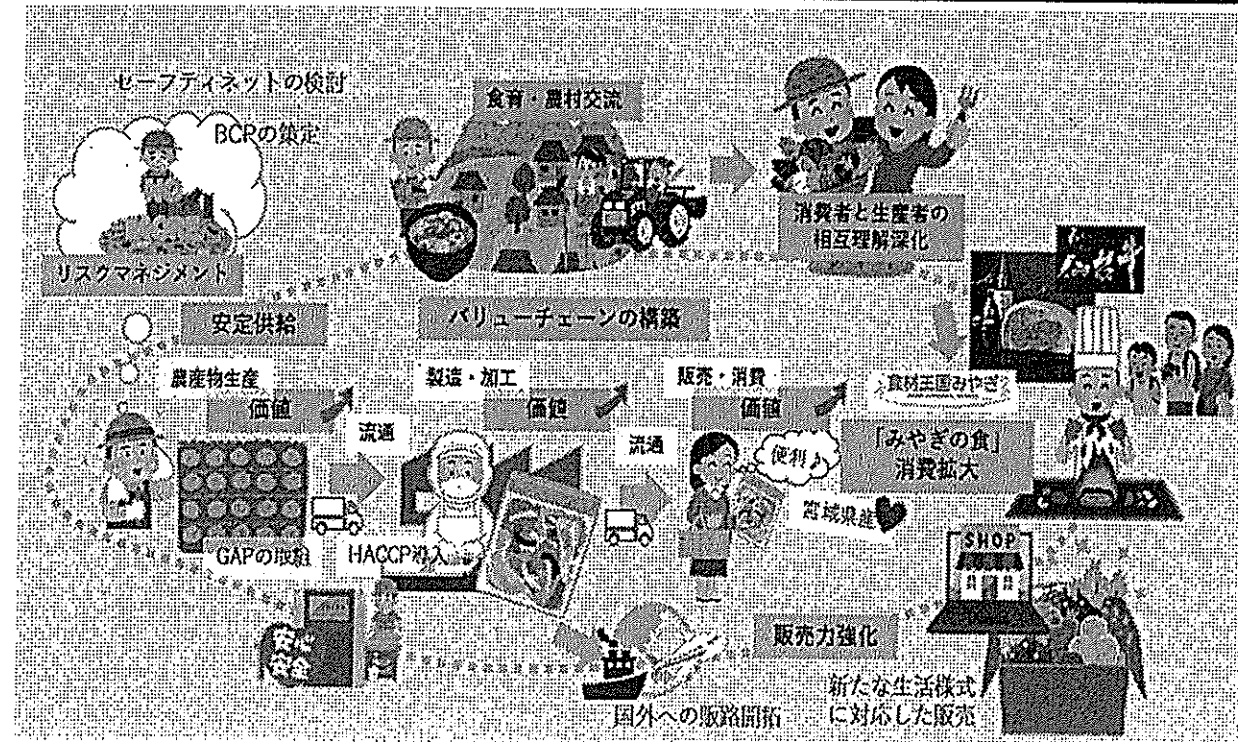
この「豊かなみやぎの食と農の未来」について、「食」「農業」「農村」の3つの将来像を掲げます。



## 食の将来像

海・山・大地の豊かな恵みと東北の大消費地仙台を抱える強みを生かし、消費者と生産者の相互理解を深めながら、食品産業等との連携を強化し、食のバリューチェーンをつなぎます。

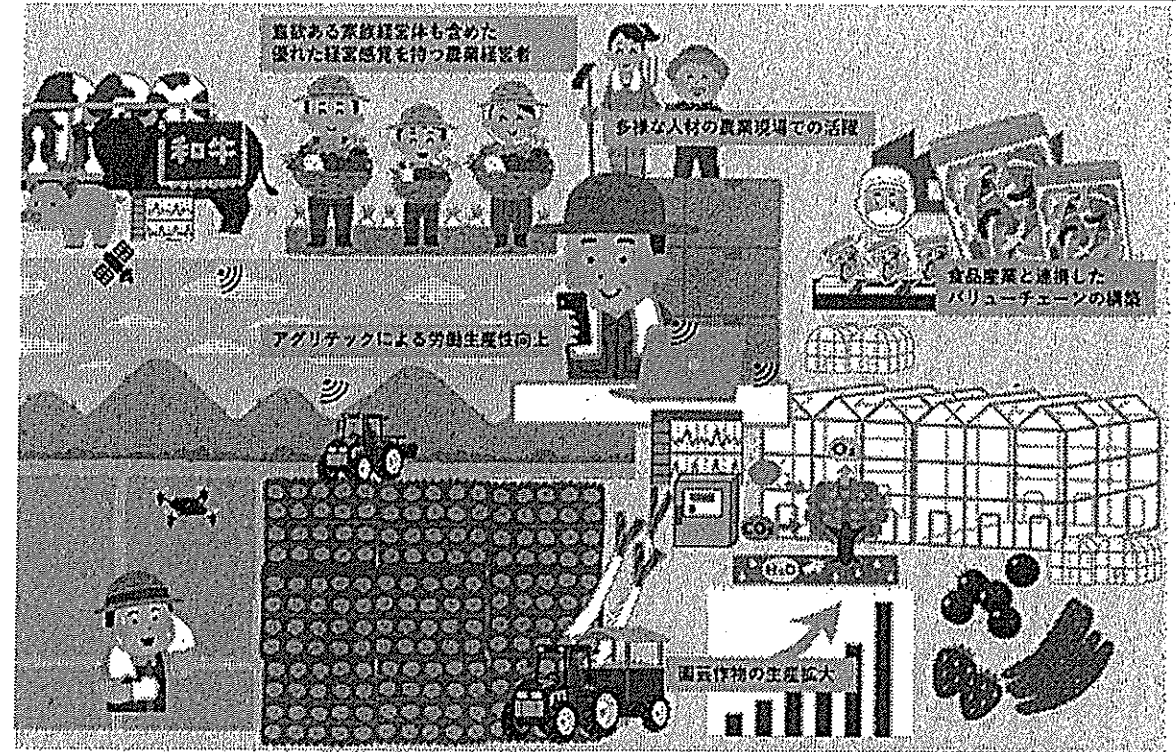
これにより、「食材王国みやぎ」を全国に浸透させ、時代のニーズに対応した「豊かなみやぎの食」をつくります。



## 農業の将来像

全国トップクラスの大区画水田整備率や園芸栽培に適した気候や立地条件を生かし、アグリテックによる労働生産性の高い水田農業や畜産経営を展開するとともに、食品産業と連携しながら園芸の生産を拡大します。

これにより、みやぎの農業を地域経済を支える産業として発展させます。



## 農村の将来像

都市と農村の距離が近く、美しい風土や地域資源が豊富にある強みを生かし、郷土愛のある地域人材が外部人材との協働により、多彩な「なりわい」を創出します。また、農村において人口減少や高齢化に対応しながら魅力ある地域を維持していくため、デジタルトランスフォーメーションの推進や防災機能を強化します。

これにより、関係人口や移住希望者に選ばれる持続可能な農村をつくります。



○ 令和3年度プロジェクト課題一覧表（案）

資料3

No	プロジェクト課題名	計画期間	対 象 (対象農家・地域名等)	進行管理担当班 担 当 者 名
1	中山間地域農業を支える地域営農体制の構築 (継続)	平成31年度 ～ 令和3年度	倉内・大針農村地域活性化委員会地域営農部会 (仙台市)	地域農業班（鷺尾） ◎菊地敬子，山田有子 小野寺和博，小林真言
2	先進的園芸経営体の生産技術向上による経営安定 (継続)	令和2年度 ～ 令和3年度	(株)イグナルファーム大郷 (大郷町)	先進技術第一班（早坂） ◎漆山裕子，千葉研一郎 小野寺和博，堀越綾子
3	土地利用型法人によるえだまめ生産体系の確立 (新規)	令和3年度 ～ 令和5年度	(株)大郷農産 (大郷町)	先進技術第一班 農業普及指導専門監(泉澤) ◎千葉研一郎，早坂裕子 鷺尾英樹，小林真言
4	農村の維持発展を支える法人経営の体質強化 (新規)	令和3年度 ～ 令和5年度	(農)あきう生産組合 (仙台市)	先進技術第二班（小野寺） ◎佐藤浩子，細谷和宏 柴田昌人
5	「シャインマスカット」の生産・販売力の向上による産地育成 (新規)	令和3年度 ～ 令和4年度	JA新みやぎあさひなぶどう部会 中核的農家5名（同部会員20名） (富谷市) (大和町) (大郷町)	先進技術第二班（小野寺） ◎宇田川久美子，柴田昌人 宮本晴恵

## プロジェクト課題等整理表

課題No. 3	計画期間 令和3年度～令和5年度	
課題名 土地利用型法人によるえだまめ生産体系の確立	株式会社大郷農産 3人	
対象名及び対象者数	株式会社大郷農産（以下、大郷農産）では、水稲30.5ha、大豆22.1ha、いちご5aを経営しており、令和2年度に市町村振興総合補助金によりえだまめ収穫機を導入し、えだまめを60a作付けし、加工向け及び生鮮向けとして出荷している。	
課題の背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>えだまめ栽培の従事者は、代表及び社員2人の計3人で、雑草・病害虫防除等栽培技術に課題があり技術的支援を必要としている。</li> <li>大郷農産では枝豆栽培が水稲、大豆及びいちご栽培との競合があることから、省力化や作期分散の検討が必要である。</li> <li>大郷町では町の振興品目としてえだまめを推進するとともに、同町前川地区で予定している基盤整備事業の高収益作物として検討している。</li> <li>JA新みやぎあさひな地区本部では、えだまめを振興品目に位置付けている。</li> <li>仙台管内ではえだまめは数量、金額ともに伸びている品目であり、全国的にみても消費需要が高く、市場からも地元の新鮮なえだまめが求められている。</li> <li>全農みやぎでは、パッケージセンターにえだまめの画像センサー選別機を導入し、選別以降の出荷調整作業を請け負う計画がある。</li> <li>大郷農産においてえだまめ栽培が定着することにより、モデル的な取り組みとして町内の他の法人へ波及することが期待される。</li> </ul>	
期待される対象の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培技術の向上により収量、品質が安定する。</li> <li>水稲、大豆及びいちごの作業との労働配分を考慮した生産体系が確立する。</li> </ul>	
果実施方針上の関連項目	1-(4) 園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援	
地域基本方針上の関連項目	2-(1) 園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援	
担当チーム員	◎千葉研一郎，早坂裕子，鷲尾英樹，小林真言	

年度別	令和3年度（1年目）	令和4年度（2年目）	令和5年度（3年目）	最終到達点
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な栽培技術が習得できる。</li> <li>新規作型の導入が検討される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培技術の習得により反収が向上する。</li> <li>出荷体制が検討される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培技術の向上により収量、品質が安定する。</li> <li>水稲、大豆及びいちごの作業との労働配分を考慮した生産体系が確立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10a当たりの可収量の20%増加</li> </ul>
定量的数値目標 現状（令和2年度）	10a当たりの可収量(R2:200kg)の10%増加	10a当たりの可収量の15%増加	10a当たりの可収量の20%増加	
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>雑草・病害虫防除等栽培技術支援（巡回指導、先進地視察研修、栽培暦作成）</li> <li>新規作型の検討（作付時期・品種検討実証は設置、生育調査、労働時間調査、コスト調査）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>雑草・病害虫防除等栽培技術支援（巡回指導、先進地視察研修、現地検討会）</li> <li>出荷体制の検討（作付時期・品種検討実証は設置、生育調査、機械化体系等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>雑草・病害虫防除等栽培技術支援（巡回指導、先進地視察研修、現地検討会）</li> <li>出荷体制の最適化支援（作業の分散化・分業化、労働時間調査等）</li> </ul>	
関係機関の主な役割分担項目	JA全農みやぎ（販売支援），JA新みやぎあさひな地区本部（販売支援），大郷町（補助事業導入支援）			
関連事業名と役割	市町村振興総合補助金			

プロジェクト課題等整理表

課題No. 4	計画期間	令和3年度～令和5年度
課題名	農村の維持発展を支える法人経営の体質強化	
対象名及び対象者数	農事組合法人あきう生産組合 理事8人	
課題の背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(農)あきう生産組合は、平成12年に設立された秋保転作組合をJA出資型法人として平成28年に法人化したもので、構成員は22名で平均年齢は68歳である。構成員の高齢化に伴う労働力の低下が懸念されている。</li> <li>・経営規模は水稲12ha、大豆50ha、そば25ha。排水不良地や土壌タイプの異なるほ場が多く、総じて水稲や大豆、そばの収量は低いので、土づくり等安定生産技術の支援を求められている。水稲は全量が環境保全米で、その多くはJAを通じて秋保温泉で提供されている。</li> <li>・大豆を中心にイノシシやサル等の鳥獣害が多発し、収量に影響を及ぼしている。</li> <li>・労働力の維持強化を図るため若い社員の雇用を計画しているが、組合として雇用した経験がないため不安を感じている。また、優秀な人材を確保するため魅力のある労働環境を整備していく必要がある。</li> <li>・雇用の定着に向けて園芸品目の導入を検討しており、本年度、試験的にそらまめ栽培(10a)に取り組み中である。</li> <li>・構成員の出役人数の減少や新規雇用の増加、経営品目や規模の変化に対して適切に労働力を配分して経営を行う必要がある。</li> <li>・水稲、大豆、そばの生産技術が向上し、地域農業の持続的な受け皿として安定した経営が行われる。</li> <li>・新規園芸品目が定着し、農地及び労働力が効率的に活用される。</li> <li>・労務管理基盤が整備されることにより人材確保に向けた積極的な活動が行われるようになる。</li> </ul>	
期待される対象の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水稲、大豆、そばの生産技術が向上し、地域農業の持続的な受け皿として安定した経営が行われるようになる。</li> <li>・新規園芸品目が定着し、農地及び労働力が効率的に活用される。</li> <li>・労務管理基盤が整備されることにより人材確保に向けた積極的な活動が行われるようになる。</li> </ul>	
果実施方針上の関連項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>1-(1) 先進的経営体や地域の核となる経営体の育成及び経営の安定化・高度化支援</li> <li>1-(5) 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援</li> <li>3-(2) 関係機関等との連携強化と合意形成推進による地域農業の維持・発展支援</li> </ul>	
地域基本方針上の関連項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>1-(1) 先進的経営体や地域の核となる経営体の育成及び経営の安定化・高度化支援</li> <li>3-(1) 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援</li> <li>4-(3) 関係機関等との連携強化と合意形成推進による地域農業の維持・発展支援</li> </ul>	
担当チーム員	◎佐藤浩子, 柴田昌人, 細谷和宏	

年度別	令和3年度(1年目)	令和4年度(2年目)	令和5年度(3年目)最終到達点
定性的目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水稲、大豆、そばの収量・品質が向上する。</li> <li>・新規に園芸品目が試作される。</li> <li>・人材確保のための労務管理について理解が深まる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水稲、大豆、そばの収量・品質が向上する。</li> <li>・新規園芸品目の導入及び規模拡大が図られる。</li> <li>・労働条件と給与体系が整備される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水稲、大豆、そばの生産技術が向上し、地域農業の持続的な受け皿として安定した経営が行われる。</li> <li>・新規園芸品目が定着し、農地及び労働力が効率的に活用できる。</li> <li>・労務管理基盤が整備されることで人材確保に向けた積極的な活動が行われるようになる。</li> <li>・農産物売上高増加率</li> </ul>
定量的数値目標 現状(令和2年度)	農産物売上高増加率 (R1:基準年 0) 3%増	農産物売上高増加率 5%増	農産物売上高増加率 8%増
活動事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水稲、大豆、そばの安定生産技術支援</li> <li>・新規園芸品目の導入及び栽培技術支援</li> <li>・労務管理基盤の整備支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水稲、大豆、そばの安定生産技術支援</li> <li>・新規園芸品目の導入及び栽培技術支援</li> <li>・労務管理基盤の整備支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水稲、大豆、そばの高位安定生産技術支援</li> <li>・新規園芸品目の栽培技術及び定着支援</li> <li>・労務管理基盤の整備支援</li> </ul>
関係機関の主な役割分担項目	JA仙台(経理・販売支援) 全農みやぎ(販売支援) 仙台市(事業導入等支援)		
関連事業名と役割			



プロジェクト課題等整理表

課題No. 5	「シャインマスカット」の生産・販売力向上による産地育成			計画期間	令和3年度～令和4年度
課題名	JA新みやぎあさひなぶどう部会 中核的農家5人（同部会員20人）				
対象名及び対象者数	JA新みやぎあさひなぶどう部会 中核的農家5人（同部会員20人）				
課題の背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JA新みやぎあさひなぶどう部会は平成28年4月に設立され、令和3年1月時点での会員数は25名となっている。ぶどう栽培面積は「シャインマスカット」を中心に約1ha。「シャインマスカット」はほとんどの部会員が導入しているが、1戸当たりの本数は少なく、大半の部会員は試作的な生産にとどまっている。</li> <li>・これまで平成28～30年度のプロジェクト課題では幼木期のH型整枝・短梢せん定の導入支援をしてきた。中核的農家5人は、部会の中でもいち早く幼木期の栽培管理技術を習得し、樹形が概ね完成しており、出荷販売が始まっている。今後は、新たな増収・省力技術（「普及に移す技術」第93号）を導入することで生産量向上が見込める。</li> <li>・中核的農家5人の販売についてはJAを通じて直売や個別販売が中心だが、樹齢の経過や面積拡大による生産量増加を見据えた販売方法を模索しており、実需者ニーズ（房重、1粒重、1粒重、房ぶどう、粒ぶどう等）を捉えた販売戦略の構築と栽培管理技術の習得支援が求められている。</li> <li>・中核的農家5人が部会の中心となって技術を習得し、販売戦略を構築することにより、部会全体が活性化し産地形成が期待される。</li> </ul>				
期待される対象の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・増収・省力技術の習得と販売戦略に沿った栽培管理を行う。</li> <li>・ニーズに応じた販売ができるようになる。</li> </ul>				
県実施方針上の関連項目	1-2 (4) 園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援				
地域基本方針上の関連項目	2-4 (1) 園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援 2-4 (2) 多様化する需要の変化に対応した生産・販路拡大への取組支援				
担当チーム員	◎宇田川久美子, 柴田昌人, 宮本晴恵				

年度別 成果指標	定性的目標	令和3年度（1年目）	令和4年度（2年目）	最終到達点	令和 年度（年目）
		定量的数値目標 現状(令和2年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・増収・省力技術を理解する。</li> <li>・販売戦略が検討され、新たな出荷形態による試験販売を行う。</li> <li>・販売量増加率 R2年度（660kg）の5%増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・増収・省力技術の習得と販売戦略に沿った栽培管理を行う。</li> <li>・ニーズに応じた販売ができるようになる。</li> <li>・販売量増加率 R2年度（660kg）の10%増</li> </ul>	
活動指標	活動事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産技術の高度化・省力化支援（増収・省力技術の展示ほ、講習会）</li> <li>・販売戦略検討支援（販売状況分析、出荷形態検討、販売会・消費者アンケート・市場調査等の実施支援、次年度販売検討支援等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産技術の高度化・省力化支援（増収・省力技術の展示ほ、講習会）</li> <li>・販売力向上支援（販売会実施支援、販売先との情報交換、産地PR支援、販売戦略作成支援）</li> </ul>		
関係機関の主な役割分担項目 JA新みやぎあさひな地区本部（栽培講習会の開催、栽培暦作成、販売支援）、農業・園芸総合研究所（栽培技術支援）					
関連事業名と役割					